

一般社団法人 倫理研究所

平成 26 年度

年次報告



2013-2014
ANNUAL REPORT

一般社団法人倫理研究所 平成26年度 年次報告

ANNUAL REPORT

平成25年9月1日～平成26年8月31日

CONTENTS

- 4 活動トピックス
 - …「地球倫理の森」創成15周年
- 6 …「地球倫理推進賞」の贈呈
- 7 …丸山奨学金による支援
 - …東日本大震災教育支援基金
- 8 …しきなみ子供短歌コンクール
- 9 …教育再生フォーラム
- 10 …全国青年弁論大会
- 11 …「まなびピア」への参加
 - …社会教育功労者表彰
 - …他団体への寄付・協賛
- 12 倫理の研究と成果の発信
- 14 家庭倫理の普及
- 16 企業倫理の普及
- 18 文化芸術活動の普及
- 19 海外の普及
- 20 倫理を学ぶ多彩なセミナー
- 22 出版物の刊行
- 24 組織概要
- 25 …家庭倫理の会・倫理法人会拠点数
- 26 …主要施設・沿革

平成26年度より倫理研究所は「一般社団法人」の認可を得て新たな一歩を踏み出しました。事業については「地球倫理の推進」「日本創生」の二大理念の下、国内外の情勢を見据えつつ、新たに「内外拡充、上

下一心」を基本方針と定め、純粹倫理の普遍的価値を拡めるべく、国内外で各種の公益活動を展開しました。

研究部門では、純粹倫理の深化と倫理文化の構築をめざし、精力的に研究を

推進しました。1052名の参加者を得て熊本市で開催した公開研究発表会では、「なぜいきいきと生きられないのか―錯覚にとらわれた私たち―」をテーマに広く研究成果を発信しました。また、道徳教育およ

び家庭教育を推進する外部研究者・関係団体と連携を図るなど、多面的な研究活動も行ないました。

普及部門である生涯局では「家庭のちから」をテーマに全国187会場で家庭

一般社団法人として、新たな船出となった平成26年度。

倫理講演会を、全国3カ所で「未来を創る」をテーマに青年弁論大会を開催。さらに全国7カ所で「教育再生フォーラム」を実施し、日本創生の要となる家庭教育・青少年教育について提言しました。普及活動も堅実に進み、会員数は17万8891名になりました。文化活動は「第9回しきなみ子供短歌コンクール」を開催。子供の豊かな感性とその子を見守る親の深い愛情が伝わる感動的な表彰式が行われました。また、書道・短歌の指導も活発に行ない、国民芸術としての公益性の高い活動を展開しました。

同じく普及部門・法人局では「拡充」3年計画の2年目となる最重要年度と位置づけ、組織の活性化ならびに幹部役職者のさらなる教育力の向上に力を注ぎました。倫理経営講演会

は「繁栄の法則―倫理経営のすすめ―」をテーマに、全国620カ所で開催しました。全国の倫理法人会数は670カ所、会員企業数は6万5038社になりました。また、「倫理17000」ライセンスの10周年記念大会を東京で開催し、同ライセンス取得の社会的価値を再認識する意義ある大会となりました。認定された企業は新たに9社増えて183社になりました。

教育部門では、富士教育センターにおいて、生活倫理・企業倫理・青少年の各セミナーなどを通じて、苦境を突破して希望の未来を確信できる実践者を数多く養成しました。倫理運動の原点を見つめる「特別企画セミナー」では、創立者・丸山敏雄生誕120年を記念して制作した映像全4章を上映。併せて、特別追仰

式を挙行するなど、創立者への敬仰の念を一層深める試みとなりました。

出版部門では、「命はぐくみ未来へつなぐ場」である家庭のあり方について多面的に考察した『家庭のちから』、人生の活路を拓き、繁栄へと導く実践のヒントを綴った『繁栄の法則』を発刊。『新世』『倫研新報』などの定期刊行物も計画通り刊行しました。

広報活動では、「第17回地球倫理推進賞」国内・国際活動部門の各1団体を選出し贈呈式を開催。また、「東日本大震災教育支援基金（りんりん基金）」の「奨学サポート」では、岩手県・宮城県・福島県の高校3年生を対象に、第2期奨学生13名の大学進学を支援しました。『タグボート支援』では、被災地での教育環境整備に尽力する5団体

へ活動資金の助成を行ないました。

国際活動では沙漠緑化事業に第56・57次隊を派遣し、植林数は総計約32万3000本に達しました。第56次隊では「未来を創る―新たな価値観の創造―」をテーマに青年弁論大会を開催。日本と中国の青年が相互理解を深め、より一層の友好交流を誓いあいました。また、アジア諸国の留学生13名、中国・内蒙古大学学生60名に「丸山奨学金」を支給。中国をはじめブラジル、米国、台湾などとの倫理交流ならびに新たな普及開発の可能性のある地域の調査などを進めました。

本年次報告では、平成26年度の事業の詳細について、写真や図表を多用し包括的にご紹介します。



平成 26 年度
活動トピックス

民間の社会教育団体として、
さまざまな生涯学習活動を
展開しました。



中国の広大な沙漠
での「地球倫理」の
実践・推進活動が
お蔭さまで15周年
を迎えました。

地球倫理の推進

① 「地球倫理の森」創成 15周年

平成26年7月6日、中国内蒙古自治区オルドス市恩格貝において、「地球倫理の森」創成15周年記念式典を開催しました。中国政府関係者をはじめ、「地球倫理の森」創成の功労者や支援者など、日中併せて約90名が一堂に会し、あらためて「地球倫理」を力強く推進していくことを誓いあいました。

また、その15年にわたる堅実な緑化活動に対し、9月26日に中国甘肅省蘭州市で開催された「第6回中国緑色発展高層論壇」（第6回中国環境発展要人フォーラム）において表彰され、丸山敏秋理事長に賞状と記念の盾が贈られました。

同フォーラムは、「中国生物多様性と緑色発展基金会」を中心に、国連環境企画機構と蘭州市政府の共同主催によるもので、国内の環境改善に成果を上げた10都市、10企業、10の個人または団体を表彰していま

す。同基金会の胡徳平理事長は、かつて中国の民主化を推進した胡耀邦氏（元中国共産党総書記）の長男であり、国民からの信任が厚い政府の要人。胡理事長は開幕式の講演の中で、故・遠山正瑛氏（鳥取大学名誉教授）が恩格貝の沙漠開発に長年にわたって尽力したことを称え、その精神を倫理研究所が継承してきたことを紹介しました。

平成26年度の沙漠緑化隊としては、第56次沙漠緑化青年隊（4月28日～5月5日）38名を中国・内蒙古自治区クブチ沙漠、第57次沙漠緑化隊（7月27日～8月2日）36名をクブチ沙漠・ウランブハ沙漠に派遣。通算の植林本数は約32万3000本となりました。

【右】「地球倫理の森」記念碑の前で行なわれた15周年記念式典。参加者全員で記念撮影【左上】「第6回中国環境発展要人フォーラム」にて胡徳平理事長【中央】と記念撮影。表彰状を受けた丸山理事長【左】、記念の盾を手に前川朋廣常任理事【右】【左中】恩格貝にある沙漠賓館で開催された15周年記念パーティーには中国政府関係者も出席。スピーチする元国家科学技術協会副主席・劉恕（りゅうじょ）氏【左下】子供から大人まで幅広い年齢層が共に汗を流した第57次沙漠緑化隊

平成 26 年度 丸山奨学生 (13 名)

国籍	研究機関
中国・カンボジア・マレーシア	東京大学
中国・カザフスタン	筑波大学
中国	広島大学
中国	大阪大学
シンガポール	慶應義塾大学
中国	早稲田大学
カンボジア (2 名)	神戸学院大学
中国	総合研究大学院大学
フィリピン	政策研究大学院大学



カンボジアからの留学生、トル・ディナ (右) さん (東京大学)

丸山奨学生は将来日本との学術・文化などの友好交流の架け橋として期待される人材であり、各自の専門研究テーマを探索するとともに、「地球倫理」を御殿場市にある富士高原研修所で体験学習し、日本文化の理解を深めています。

③ 丸山奨学金による支援

平成 26 年度も「丸山奨学金」200 万円を中国内蒙古古大学に支給し、併せて 5 カ国 13 名のアジア諸国の留学生 (丸山奨学生) にも奨学金総額 1473 万円を支給、勉学を支援しました。

海外および国内における教育支援

④ 東日本大震災教育支援基金 (りんりん基金)

被災により両親や家族を失った遺児や若者達の勉学を援助し、教育環境の整備に役立てることを目的として平成 23 年 4 月に開設した教育支援基金を「タグボート支援」「奨学サポート」の 2 分野で活用しました (平成 26 年 8 月 31 日時点で総額 1 億 6242 万円支出)。

「タグボート支援」

被災地において子供の教育支援活動を行なうボランティア団体への支

「奨学サポート」

被災による経済悪化によって大学進学が困難となった高校 3 年生を対象とした、大学入学支度金および在学中の奨学金給付を実施。岩手県・宮城県・福島県の全ての高等学校へ呼びかけ、応募者 51 名の中から選考の末、第 2 期奨学生 13 名 (岩手 5 名、宮城 6 名、福島 2 名) を決定し、認定書を授与しました。前年度の第 1 期生 10 名と併せて計 23 名に 5316 万円の奨学金を給付しています。



第 2 期奨学サポート認定書授与式では、丸山理事長より奨学生一人ひとりに認定書が授与された



東日本大震災
教育支援基金

地球倫理推進の一環として、実践面で貢献している団体を顕彰しました。



② 「地球倫理推進賞」の贈呈

「第 17 回地球倫理推進賞」の贈呈式を、平成 26 年 3 月 27 日、倫理文化センターにて実施しました (後援／文部科学省、産経新聞社、全国民間ラジオ局 37 社)。

応募総数 50 件 (国内活動部門 26 件、国際活動部門 24 件) の中から、厳正なる審査・選考を経て、国内活動部門は「認定 NPO 法人カタリバ」 (代表・今村久美氏)、国際活動部門は「認定 NPO 法人かものはしプロジェクト」 (代表・村田早耶香氏) を表彰しました。併せて、文部科学省より文部科学大臣賞が贈られ



【上】贈呈式後、記念撮影に応じる受賞 2 団体 【中】「コミュニティ・ファクトリー」で働く現地の少女 【下】高校生と対話を深めるカタリバのスタッフ

ました。

「カタリバ」は、子供達の「生き抜く力」を育むことを目的として、主に高校生への学習プログラム「カタリ場」を継続的に実施。設立以来約 600 校で開催し、全国 28 都道府県で約 12 万人にプログラムを届け、学生達が希望を持って未来を切り開くためのサポートに貢献しています。「かものはしプロジェクト」は、カンボジア・インドを中心に「子供が売られない世界をつくる」を使命として、現地政府などと連携し、人身取引の抑止に尽力。また、安定的な就労をめざす「コミュニティ・ファクトリー」を設け、多くの女性達の職能向上に貢献しています。

贈呈式にはマスクコミ関係者、首都圏の会員、倫理研究所職員の約 300 名が出席。記念講演では、両代表がスライドを使用しながら取り組みと成果および活動現場の生の声を発表し、出席者に深い感銘を与えました。



失われかけている
家庭教育の再生へ向け、
教育運動ネットワークを
全国各地に拡げるべく開催。

家庭教育の「創生」へ向けて

大阪会場では教育関係者 282 名を含む 1,241 名が来場し、最後まで熱心に聴講した



【上】パネリストとして登壇した兵庫県議員・北浜みどり氏（神戸会場）【下】浦添市長・松本哲治氏（沖縄会場）

06 教育再生フォーラム
日本の家庭教育をよりよいものに再生することを目的に、その重要性を地域に訴えるべく、「よみがえれ日本の教育力―それは家庭からはじまる―」をテーマに、全国 7 カ所で開催しました。
倫理研究所理事長・丸山敏秋の基調講演に続き、地元教育関係者によるパネルトークを行ない、家庭教育に悩む聴衆に指針を明示し、感動を与えました。各開催地の教育委員会をはじめ教育・行政関係者、地域諸団体の代表者を招待し、多くの参加を得ました。

開催日	開催場所	参加者数
平成 25 年 12 月 1 日	(沖縄) 沖縄コンベンションセンター	1,757
平成 26 年 1 月 11 日	(鹿児島) 宝山ホール	1,641
3 月 2 日	(兵庫) 神戸文化ホール	1,633
4 月 19 日	(茨城) ひたちなか市文化会館	1,194
4 月 27 日	(埼玉) 川口リリア	1,837
5 月 18 日	(群馬) みかぼみらい館	829
8 月 2 日	(大阪) 大阪 NHK ホール	1,241
合計	全国 7 カ所	10,132



短歌づくりを通して子供たちの国語力を養い、
豊かな人間性を育成することを目的に
全国規模の短歌コンクールを開催。

吉川 風人

表彰式ではスクリーンを用いて作歌の動機を紹介。一人ひとりに表彰状が手渡された

05 しきなみ子供短歌コンクール
第 9 回「しきなみ子供短歌コンクール」を開催し、全国の小学生 6 万 1 万 5 千 3 名（1 万 3 千 0 0 校）より応募がありました（後援／文部科学省、全国民間ラジオ局 37 社）。
都道府県別の予選を経て平成 25 年 11 月 28 日の最終選考会では、共立女子大学名誉教授・木村治美氏、作家・神渡良平氏、歌手・千葉紘子氏、倫理研究所選抜参事・大木千鶴子氏の 4 名が特別選考委員を務め、しきなみ子供短歌賞（小学校低学年・中学年・高学年の部）の 3 名、および特選 30 名、入選 3 1 0 名、佳作 4 9 6 名が選出されました。
平成 26 年 2 月 9 日の表彰式（於東京・虎ノ門「ニッショーホール」）には、受賞者 29 名と受賞者家族 1 0 0 名を含む 5 3 8 名が出席。しきなみ子供短歌賞の受賞者 3 名には文部科学大臣賞が贈られました。



しきなみ子供短歌賞の表彰状を手にし、会場の歓声に笑顔で応える高司歩佳さん

しきなみ子供短歌賞受賞作品
「低学年の部」舞原かほ／埼玉・1 年生
せんせいとままのめんだんきになる
よおこらないでねなにいわれても
「中学年の部」牧野航平／千葉・4 年生
勝浦のすなにねころび星みればたつ
たひとりのプラネタリウム
「高学年の部」高司歩佳／大分・5 年生
初雪がヒラヒラ落ちた手のひらに小さな冷たさのこして消えた

「未来を創る」青少年の健全育成をめざして



西日本ブロック大会で優勝した普久嶺果林さん（浦添市）



07 全国青年弁論大会

平成26年度は、純粋倫理の学習・実践の両面において、リーダーシップを発揮する青年の育成を積極的に推進しました。「全国青年リーダー会」を開催したほか、平成26年1月25日から3月9日にかけて、全国14カ所で「青年弁論大会1次予選会」を開催。続いて7月に全国3カ所で「青年弁論ブロック大会」を開催し、活動のさらなる活発化を図りました。ブロック大会では選りす

ぐりの21名の弁士が「未来を創る」をテーマに熱く語ったほか、小学生たちによる作文の発表も行なわれました。笑いあり、涙ありの発表は多くの感動を生み、大会は盛会裏に終了しました。

ブロック大会・開催地区	参加者数
東日本（東京）	1110名
中日本（大阪）	1026名
西日本（福岡）	1041名



平成26年度 東日本ブロック 青年弁論大会



08 「まなびピア」への参加

全国生涯学習ネットワークフォーラム「まなびピア2013岩手大会」の参加事業として、ラジオ番組「こころ温まるいい話」を提供放送しました（IBC岩手放送「ワイドステーション」内／平成25年9月30日から11月5日までの全35回）。また、『岩手日報』11月12日の朝刊に、岩手県倫理法人会の役員による座談会の模様を、全面広告として掲載しました。

「まなびピア」は、学ぶ楽しさや

09 社会教育功労者表彰

平成25年度「社会教育功労者表彰式」が11月14日、文部科学省講堂にて開催され、町筋幸江生涯局

大切さを感じ、まなびのきっかけ作りを提供する参加体験型のイベントとして平成元年よりスタート。文部科学省と開催都道府県が主催し、毎年各県持ち回りで行なわれてきました。倫理研究所は展示ブースを出展するなど、第1回目から参加しています。

選抜参事が文部科学大臣より表彰されました。氏は昭和37年に草加実践部入会后、埼玉支所青年副部長、埼玉東支所婦人部長などを歴任。また、地域福祉活動にも積極的に参画し、老人ホームで使用する雑巾をメンバーと心をつなげて700枚縫い上げ、寄贈しました。専任講師時代には「苦難は必然。新しい自分を発見し、よりいきいきとした生活を送るためのものとして受け止めてほしい」との信念で、問題に悩む全国各地の会

10 他団体への寄付・協賛

がん研究の領域において特に優れた業績をあげた学者・研究者に対する学術賞の贈呈や研究奨励助成などを行なっている「公益財団法人高松宮妃癌研究基金」をはじめ、「伊勢神宮式年遷宮御造営資金」「出雲大社御遷宮奉賛金」「豊前市芸術文化振興事業協賛金」などへの寄付・協賛を行ないました。



『岩手日報』へ掲載した「〔紙上〕倫理経営フォーラム」



社会教育功労者として表彰された町筋幸江氏



（公財）高松宮妃癌研究基金より20年にわたる寄付に対して感謝状が手渡された

倫理普及の後方支援として

倫理の研究と成果の発信



丸山理事長〔上〕、高橋徹専門研究員〔中央〕、内田智士研究員〔下〕によるトークでは活発な意見が交わされた（公開研究発表会）

研究センターは、倫理運動に資する研究事業を推進。そのための研究体制の充実を図るとともに、「地球倫理の推進」および「日本創生」に関する研究に重点を置き、定期刊行物・出版物・公開研究発表会などを通して研究成果を発信しました。また、普及・教育・出版に資する知的資産の蓄積・発信に努め、各部門との連携の強化を図りました。

研究成果の発信

公開研究発表会の開催

倫理研究所の研究活動の成果を、一般に公開・発信するため、「なぜいきいきと生きられないのか―錯覚にとらわれた私たち―」をテーマに開催しました（後援／熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、熊本県PTA連合会）。

開催日	平成26年5月25日
場所	熊本県立劇場
来場者数	1052名

研究専門出版物の発刊



『倫理研究所紀要』（年刊誌）

純粹倫理の基礎的・専門的研究、倫理文化に関する専門的研究など、多様な研究成果を発信しました。

通巻	第23号
発行部数	3850部

掲載論文

執筆者	テーマ
丸山敏秋	ラフカディオ・ハーンが捉えた日本の「根源」
野中寛治	岡倉天心の自己認識と理想
三浦貴史	「ひとのみち」から「純粹倫理」へ

研究の方向と重点

純粹倫理の基礎的・専門的研究、倫理文化の専門的研究を積極的に推進し、純粹倫理の体系化ならびに「倫理文化学」の構築をめざす研究を行ないました。

倫理文化に関する専門研究

高橋 徹	丸山敏雄の成し遂げたこと
寛ボルテール	世界遺産の再検討
ル	張旅軒と伊藤仁斎の道・道徳論比較
嚴 錫仁	妊娠・出産体験に着目した子育て支援のあり方
松本亜紀	明治日本の道徳教科書と近代中国
龔 穎	戦争中にユダヤ人を助けた日本人
ベン・アミ・シロニー	中小企業の非親族承継におけるわが国の特徴
津島晃一	道徳心と利他性の数理解析III
内田智士	



『倫理』（月刊誌）

純粹倫理の基礎的・専門的研究、倫理文化の専門的研究に関する諸論考を掲載しました。

通巻	729号〜740号
発行部数	13万4000部

倫理意識調査の実施

様々な倫理現象に対する大規模倫理意識調査を含め、現代社会の諸問題を調査し、純粹倫理との関わりを研究すべく、前年度に引き続き「日本人の家庭教育観」について調査・考察を実施。調査結果は「所内研究

研究資料の蒐集と提供

研究に資する各種の情報・資料を蒐集・分類整理・保存し、併せて教育・普及・出版の各部門の要望に応じて、情報提供を行ないました。

子供の区分	調査母親数
未就学児（0歳〜就学前）	450名
児童（小学校在学中）	450名

蒐集対象	整理資料数
実践体験事例	1534篇
研究論文	235篇

倫理資料館の運営・管理

倫理資料館は、純粹倫理の基礎的・専門的研究ならびに倫理文化に関する専門的研究に資する図書資料の充実を図り、創立者の遺品の蒐集・保存に努めました。

専門図書を受け入れ

倫理・道徳に関する専門図書計1504冊（新刊書557冊・古書

947冊）、創立者研究文庫114冊、丸山敏雄記念文庫13冊を受け入れ、分類・整理しました。



研究機関および研究者との交流

「日本家庭教育学会」「人体科学会」「日本国史学会」など諸学会の活動に協賛し、専門家との交流を深めました。「日本家庭教育学会」の第29回大会では、委員として企画、実施にあたりました。また、道徳教育および家庭教育を推進する関係団体、ならびにその研究者との積極的な交流を図り、必要に応じてその活動を支援しました。

家庭倫理の普及

平成26年度の生涯局は、8年前にスタートさせた「組織創生」を仕上げるべく、普及体制を刷新し、地域性を活かした躍動感あふれる活動を展開しました。

家庭倫理の会は「家庭をよくし、地域をよくし、日本をよくする」との目的のもと、純粋倫理を積極的にアピールし、地域に密着した普及活動を展開しました。「おはよう倫理塾」や各種研修・セミナーを通して、地域貢献のできる人材育成にも努めました。

家庭倫理講演会

大人はもちろん子供達が自信や希望、生きることの喜びを取り戻すべく「家庭のちから」をテーマに、全国の家家庭倫理の会で開催（後援／文部科学省）。家庭教育の重要性を説き、喜びに満ちた生活を送るための夫婦・親子のあり方を、具体的な実践や体験談を交えて提言しました。

開催会場	187カ所
参加者数	6万2761名

子育てセミナー

各家庭倫理の会において「育児篇」「学童篇」のテーマで開催し、子育てに悩む若い母親層への純粋倫理の普及に努めました。また、お世話役である子育て正副委員長の研修会を平成25年11月に開催し、セミナー開催への意欲を高めるとともに、40代までの若手人材の育成も進めました。

開催回数	1541回
参加者数	1万5147名

おはよう倫理塾

毎朝5時より全国各地で開催し、幅広い年齢層が参加しました。参加者は純粋倫理の学習ならびに実践を通して豊かな人生を送るべく、相互研鑽、相互啓発に努めました。

開催会場	489カ所
参加者数	210万1194名

青年活動

沙漠緑化の植林活動

平成26年4月28日～5月5日、中国・内蒙古自治区恩格貝のクブチ沙漠で、沙漠緑化の植林活動を行いました。日本から30名の青年が参加。中国からも北京市、浙江省、内蒙古自治区など、8大学76名の大学生が参加。スタッフを含む総勢114名が、地球倫理の実践活動としてポプラの植林を行いました。さらに「未来を創る」のテーマで日本語による「日中青年弁論大会」を初めて開催し、両国の青年の絆を深めました。（関連記事5頁）

青年弁論大会

1月25日～3月9日にかけて、全国14カ所で「青年弁論大会1次予選会」を開催しました。続いて7月に全国3カ所で「青年弁論ブロック大会」を開催し、盛会裏に終了しました。（関連記事10頁）



子育てセミナーでは純粋倫理を基本に子育ての要点を分かりやすく解説。若い母親や父親に好評を博した

純粋倫理基礎講座

全国の家家庭倫理の会会員を対象に年間6回開催しました。純粋倫理の基本をテキストに基づいて学習し、理解を深めるとともに実践意欲を高めました。

開催回数	1248回
参加者数	3万8959名

全国一斉清掃

地域行事へ積極的に参加し、地域の活性化に貢献しました。平成25年10月に全国主要都市の公共施設（駅周辺、公園、国道、河川敷など）で



こども倫理塾

各家庭倫理の会において小学生を対象に開催、純粋倫理についてやさしく解説するとともに、あいさつや後始末など「5アクト」の実践を奨励し、純粋倫理を基本とした生活習慣を学びました。

開催回数	951回
参加者数	9228名

大規模な清掃を実施しました。

開催場所	197カ所
参加者数	5843名



企業倫理の普及

法人局は、「企業に倫理を 職場に心を 家庭に愛を」を理念として、日本創生の実現に向けて、会員企業数10万社体制に相応しい組織構築を目標に活動を推進しました。



倫理経営講演会では、会員企業が実際に行なっている活力朝礼が披露された

倫理法人会は「堅実な普及活動による確実な成果」を実現するため、純粋倫理の学習の場である「経営者モーニングセミナー」や各種研修・セミナーの活性化を図るとともに、倫理経営を誠実に伝える人材の育成に力を注ぎました。また、新たな拠点づくりを推進しました。

倫理経営講演会

「繁栄の法則―倫理経営のすすめ」をテーマに、平成26年1月～5



月にかけて全国の倫理法人会で開催しました。事業体験談や朝礼実演を交え、倫理経営の重要性や、職場に英気と活力をもたらす朝礼の必要性をアピールし、多くの経営者の賛同を得ました。

開催会場	620カ所
参加者数	7万4019名

経営者モーニングセミナー

毎週1回、早朝に全国の市・区単位の倫理法人会で開催しました。参加者は朝型の生活習慣を体得するとともに、各界で活躍する講師の体験談などを聴講し、企業を健全な繁栄へと導く倫理経営についての学びを深めました。また、会員同士の交流や情報交換も盛んに行なわれました。

開催回数	3万2926回
参加者数	86万4257名

倫理経営インストラクター研修

開催回数	3回
参加者数	249名

法人レクチャー研修

開催回数	7回
参加者数	645名

講師・幹部の養成

純粋倫理の深い理解力と実践力の強化・向上のために、幹部研修を定期的に実施しました。純粋倫理の理解と倫理指導力の向上に努めるべく、「倫理経営インストラクター研修」を開催。「倫理経営インストラクター」17名を新たに認定しました。そのほか「法人レクチャー研修」を開催し、「倫理経営講演会」「経営者の集い」「経営者モーニングセミナー」における体験発表者としての話力向上に努めました。

「倫理17000」

真に地域社会へ貢献し、倫理経営を顕著に推進している企業を認定するライセンス制度として平成16年からスタート。平成26年度は新たに9社を認定し、59社の更新審査を実施、認定証を授与しました。また、平成26年5月には制度設立から10周年を記念した大会を挙行し、有資格企業117社の経営者が集い、改めて倫理経営により「日本創生」に寄与することを誓いあいました。

認定企業数	183社
-------	------



RINRI 17000

職場朝礼の推進

よりよい社風づくりと社員の能力向上をめざして、活力あふれる職場朝礼を推進しました。朝礼用のテキストである『職場の教養』を毎月192万部発行したほか、朝礼研修に力を注ぎ、朝礼実施企業の増大を図りました。



朝礼研修実施回数	183回
参加者数	3500名

後継者倫理塾

企業の未来を担う後継者の育成を目的に開催しました。純粋倫理の学習と実践を通して、よりよい生活習

経営者の集い

業態により「経営者モーニングセミナー」に参加できない会員や、新規入会者、入会を希望する経営者を対象に、純粋倫理の学びを深める勉強会を各倫理法人会で定期的開催しました。



開催地	新潟・長野・埼玉・東京・千葉・石川・愛知・福岡・沖縄
開催回数	年間7～11回
参加者数	112名

慣と豊かな人間性、真のリーダーシップを備えた将来の経営者の養成に力を注ぎました。

開催回数	1383回
参加者数	2万3119名



文化芸術活動の普及



秋津書道会

書道による実践を通して、純粹倫理の学びを深め、倫理普及に取り組んでいます。手本の学習や古典臨書による捨我の実践と、『自分の言葉を書く』作品づくりにより、個性の発揚に力を入れています。また、地域の公共施設を会場とした書道展や「初めての書道教室」などを開催して、会員に限らず広く参加者を募り活動の輪を拡げています。

しきなみ短歌会

短歌による実践を通して、純粹倫理の学びを深め、倫理普及に取り組んでいます。短歌による生活の浄化と個性の発揚に力を入れています。また、地域の小学校における「短歌教室」のボランティアや公共施設で開催する「初めての短歌教室」を通して地域の教育力向上に貢献しています。月刊誌『しきなみ』は、年間出詠者総数が6万人を超え、短歌結社誌では13年連続で最多です。



明るく和やかな雰囲気（堀切支所）

書道

会員数	4,581 名
会場数	274 支所
月刊誌『秋津書道』年間出品者総数	29,778 名

短歌

会員数	5,926 名
会場数	354 支所
月刊誌『しきなみ』年間出詠者総数	62,691 名

海外の普及

海外組織の育成ならびに国情に応じた倫理普及を展開し、「アジア（世界）のタグボート」として倫理道德の昂揚に寄与しました。

倫理研究所USA

（南カリフォルニア倫理の会）

ロサンゼルスを拠点に日系諸団体・教育関係者へ純粹倫理の浸透を図りました。組織運営と普及力の向上を図り、文化活動（「秋津書道会」「しきなみ短歌会」）を充実させ、日系社会への普及を進めました。

ニューヨーク倫理友の会

ニューヨークを拠点に日米文化交流事業を推進し、国際的な倫理情報の発信に務めました。

ハワイ倫理の会

組織改革に取り組み、平成27年に迎える設立10周年に向けて、倫理普及拡大への意思統一を図りました。

ブラジル倫理の会

組織運営の強化と、新たに2支部の設立準備を進めました。また、活発な文化活動により日本の伝統文化

台湾

（中華民国倫理研究学会）

定期的に講師を派遣し、普及・教育・組織運営を支援しました。さらに、次代の幹部養成教育について、助言と協力を行いました。

中国

「倫理研究所中国事務所」を拠点に、中国語版ホームページの充実を図り、諸機関ともタイアップしながら、中国における倫理普及を推進しました。

平成 25 年 9 月にブラジル倫理の会で行なわれた辞令交付式



自然豊かな環境を存分に活かした内容が好評の「富士山こども倫理塾」

倫理を学ぶ多彩なセミナー

会員対象セミナー

生活倫理相談士セミナー

生活倫理相談士を対象に、相談士としての使命を喚起しつつ、自己の課題に取り組む実習を行ないました。

参加者数 (7組) 745名

生活倫理セミナー

日本の精神文化を多角的に学修しつつ、日常の生活における純粋倫理の実践について、学びと理解を深めました。

参加者数 (14組) 1840名



企業倫理セミナー

経営者倫理セミナー

「感謝」をテーマに激動の時代を生き抜く強靱な精神と、純粋倫理の実践力を向上させる学修を実施しました。受講者は、半数以上が初参加者で、1月から2月の厳寒期に人気が集まりました。

参加者数 (9組) 928名



特別企画セミナー

創立者・丸山敏雄の生誕120年を記念して制作した映像全4章の鑑賞と解説をメインに、特別追仰式を挙行するなど、創立者への敬仰の念を一層深めることができるプログラムを開催しました。

参加者数 (2組) 243名

家庭倫理の会の会員を対象とした「生活倫理セミナー」、経営者や社員を対象とした「企業倫理セミナー」、小学生と保護者を対象とした「富士山こども倫理塾」など、富士山麓の自然豊かな富士高原研修所において、各種セミナー・講座を開催しました。平成26年度の受講者総数は5847名でした。

青少年育成セミナー

富士山こども倫理塾

小学生は「あそび」「しつけ」「まなび」、保護者は「こどもを信じる」をテーマに学修しました。富士山トレッキングをはじめとする親子で行なう実習や、施設周辺の豊かな自然環境の中で伸び伸びと遊びながら、子供の自立心や協調性を養う実習を行ないました(平成26年8月開催)。

参加者数 (2組) 216名

社員倫理セミナー

幹部社員・一般社員を対象に、「活力朝礼」の活用法や、日常業務の改善・向上の原動力となる意識の深化を主軸に講座と実習を展開しました。

幹部社員参加者数	(5組) 229名
一般社員参加者数	(5組) 169名



新入社員セミナー

あいさつや後始末などの日常生活での基本動作の体得をめざしながら、チームワーク向上を体感する講

中学生・高校生セミナー

中学生と高校生を対象に、講義のほか富士宝永登山やチーム創作発表会などの実習を通して、あきらめずに挑戦することや自分の意思をはっきり相手に伝えること、どんな人とも協力しあう心の大切さを体験的に学修しました(平成26年8月開催)。

参加者数 74名(中学生57・高校生17)



義・実習などを通して、参加者の活力を引き出すとともに学生気分の一掃を図りました。

参加者数 (3組) 330名



自主企画セミナー

倫理法人会会員企業が、1社単独で企画・実施できるセミナーを、平成26年度は6組開催しました。いずれも日常の業務における処理力の向上と改善に直結するプログラムを実施しました。

参加者数 (6組) 450名

出版物の刊行

倫理運動の普及推進に資する出版活動を、各部門との連携を図りつつ行ないました。

定期刊行物の編集と発行

月刊誌

『新世』

生涯学習総合誌として、家庭の再生、職場生活を充実させるポイントとなる記事を掲載し、若い世代から高齢者に至る読者層に純粹倫理をアピールしました。「体験記」では、主に子育て、家族関係、事業に関する体験を掲載。また、「新世言」「こちら生活相談室」などのレギュラー記事によって、分かりやすく純粹倫理を伝えるとともに、毎月、特集企画を掲載しました。

通 巻	792号～803号
発行部数	264万5000部



『職場の教養』

多岐にわたる話題・事例を題材として、職場人であるための行動指針を提供。朝礼で自分の考えを自分の言葉で表現するトレーニングの一助となるよう、分かりやすい文章表現に留意しました。

通 巻	453号～464号
発行部数	2350万部



『秋津書道』

「秋津書道会」創設者・丸山敏雄の書を学ぶ会員の相互研鑽の場として、初心者から上級者まで各々の書境向上に資する内容の提供に努めました。

通 巻	728号～739号
発行部数	6万1300部



『しきなみ』

短歌づくりを通して純粹倫理の体得をめざす会員の毎月の作品発表の場として、歌境向上に資する内容の提供に努めました。

通 巻	810号～821号
発行部数	8万4500部



隔月刊誌

『倫理ネットワーク』

倫理経営の要点や純粹倫理の学びを深める読み物を掲載し、会員各位が経営および倫理法人会活動に高い意識を維持できるよう、活力ある誌面をめざしました。

通 巻	104号～109号
発行部数	54万9000部



月刊紙

『倫研新報』

各月の倫理研究所の主要行事や活動状況、全国の家庭倫理の会および倫理法人会の主催行事や諸活動の報告記事を掲載しました。また、対外活動として沙漠緑化活動や、「しきなみ子供短歌コンクール」「地球倫理推進賞」「りんりん基金奨学サポート」などを紹介しました。

通 巻	674号～685号
発行部数	151万3000部



単行本の刊行

『家庭のちから』 丸山敏秋著

人間社会において、最も基本となる営みは家庭です。家庭そのもののあり方、家庭を巡る現代の諸問題を考察し、強靱な家庭を築くために、実行のヒントを示しました。(家庭倫理講演会推薦図書)



『繁栄の法則』 丸山竹秋著

本書は倫理研究所の前理事長・丸山竹秋の著作から厳選。夫婦のあり方、職場における円滑な人間関係の秘訣など、企業や家庭を繁栄へと導くための実践的ヒントを示しました。(倫理経営講演会推薦図書)



手帳・カレンダーの発行

『実践手帳2015』

週間スケジュール表をリニューアル。週間予定の上部に倫理のエッセンスを掲載しました。

発行部数	3万3500部
------	---------



『2014標語カレンダー 今日の道しるべ』

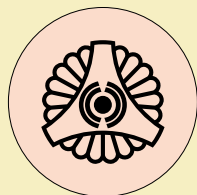
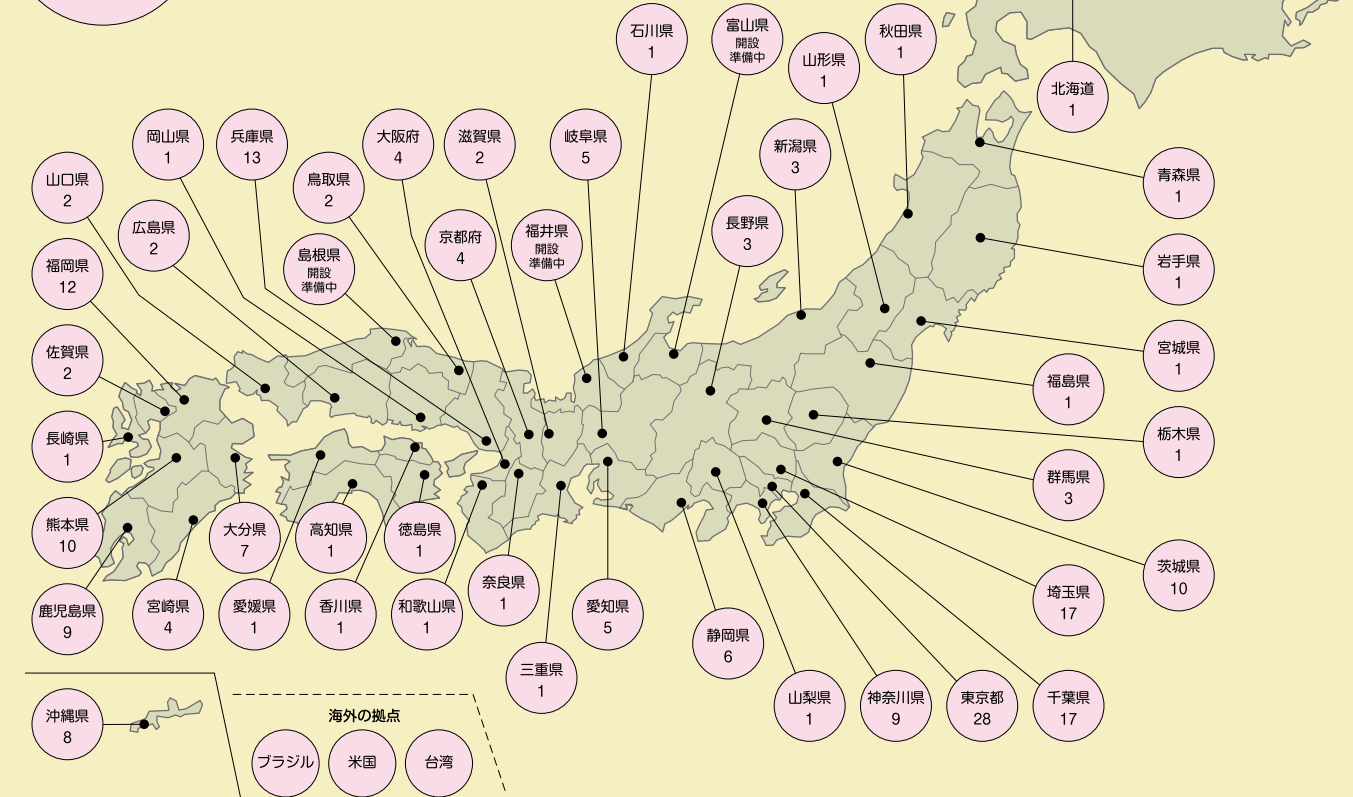
31日分の標語と解説を載せた「日めくりカレンダー」により、毎日の倫理実践を促しました。

発行部数	23万部
------	------

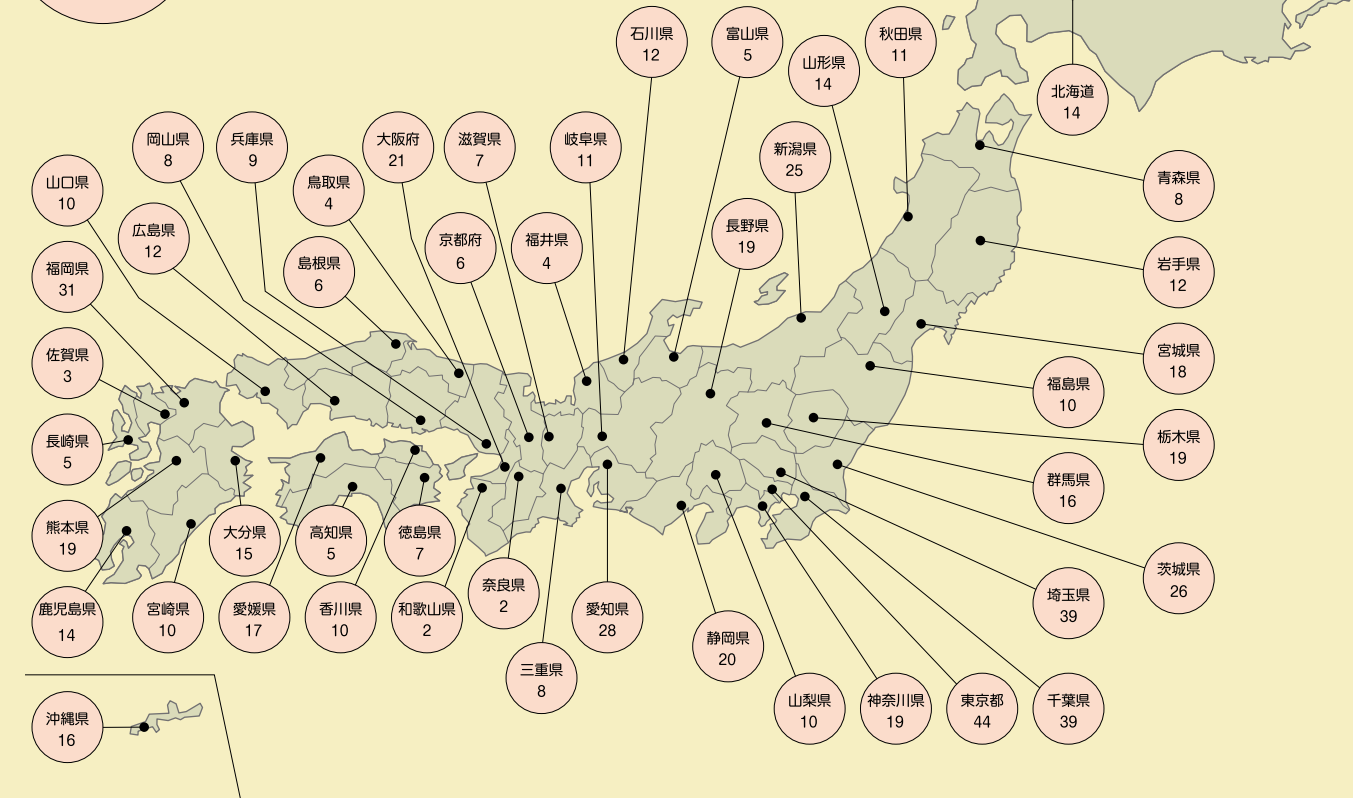




都道府県別拠点数 (2014 年 8 月現在)
全国に 206 の家庭倫理の会があります。



都道府県別拠点数 (2014 年 8 月現在)
全国に 670 の倫理法人会があります。



会員の構成

会員は倫理研究所の趣旨に賛同し、倫理運動に参加する意志のある個人と法人によって構成されています。個人会員の組織を「家庭倫理の会」、法人会員の組織を「倫理法人会」と称します。ほかに文化芸術活動を行なう「秋津書道会」「しきなみ短歌会」があります。

会員数 (2014 年 8 月現在)

家庭倫理の会	178,891 名
倫理法人会	65,038 社
秋津書道会	4,501 名
しきなみ短歌会	5,977 名

会費 (月額)

個人	500 円
賛助	1,000 円
協賛	3,000 円
特別賛助	10,000 円
法人	10,000 円 (一口)

秋津 会員	1,500 円
〃 (ジュニア会員)	800 円
しきなみ 会員	1,000 円
〃 (ジュニア会員)	500 円

組織概要

名 称 一般社団法人倫理研究所
英文名称 RINRI Institute of Ethics
理事長 丸山敏秋
常任理事 前川朋廣／徳江秀雄／内田文朗
理 事 11 名
監 事 2 名
職 員 163 名
所在地 倫理文化センター
〒 101-8385
東京都千代田区三崎町 3-1-10
TEL 03-3264-2251 FAX 03-3239-7431
創 立 1945 年 9 月 3 日
1948 年 10 月 30 日に社団法人設立許可
2013 年 9 月 2 日に一般社団法人へ移行
目 的 倫理の研究並びに実践普及により、生活の改善、道義の昂揚、文化の発展を図り、もって民族の繁栄と人類の平和に資する。
事 業 1. 社会教育事業
2. 研究事業
3. 出版・広報事業
4. 文化事業
5. 地球倫理推進事業
ホームページ <http://www.rinri-jpn.or.jp>

創立者・丸山敏雄

1892 (明治 25) 年 5 月 5 日、福岡県豊前市生まれ。広島高等師範学校を卒業し、師範学校などの教諭として奉職。37 歳で広島文理科大学に入学。日本の精神文化、歴史を探究するとともに、書道や短歌など芸術分野でも研鑽を積む。1938 (昭和 13) 年に「秋津書道院」、1946 (昭和 21) 年に「しきなみ短歌会」を創設。さらに、長年にわたる宗教や道徳などの研究を土台に、自らの実践、体験を積み上げながら、「人間生活のすじみち」を研究し続け、それを純粋倫理と名づけた。その後、数多くの論文を発表しながら純粋倫理を体系づけることに力を注ぐ。

1945 (昭和 20) 年に倫理運動を興し、「新世文化研究所」(現・倫理研究所) を創立。自ら陣頭に立ち、一人でも多くの人に純粋倫理を伝えるべく、教育や講演、執筆に身命を賭す。『万人幸福の栞』『無痛安産の書』『人類の朝光』など著書多数 (全て新世書房刊)。

1951 (昭和 26) 年 12 月 14 日逝去。



組織概要

沿革

- 1945 年

丸山敏雄、論文「夫婦道」起稿。倫理運動を創始。
- 1946 年

「新世文化研究所」設立（初代所長、丸山敏雄）。
- 1947 年

「新世会」設立。
- 1948 年

「新世会」が社団法人の許可を受ける。
- 1949 年

「朝の集い」開始（上野、神田、銀座、市川）。
- 1951 年

「社団法人新世会」を「社団法人倫理研究所」と改称。丸山敏雄逝去。丸山竹秋、理事長に就任。
- 1966 年

富士高原研修所竣工。
- 1967 年

中日支所設立、支所体制がスタート。
- 1973 年

アメリカ・ロサンゼルスに拠点開設。
- 1980 年

千葉県に第 1 号の倫理法人会発足。
- 1985 年

創立 40 周年記念大会にて丸山竹秋が「地球倫理の推進」を提唱。
- 1986 年

中華民国（台湾台中市）に拠点開設。
- 1987 年

第 1 回日中実践倫理学討論会開催。
- 1989 年

丸山竹秋、藍綬褒章受章、社会教育功労者表彰。第 1 回全国生涯学習フェスティバル「まなびピア」に参加。
- 1990 年

倫理法人会 1 万社達成記念大会開催。
- 1992 年

丸山敏雄生誕 100 年記念大会開催。
- 1995 年

創立 50 周年記念大会開催。丸山竹秋が地球倫理推進の運動方針「アジアのタグボート」を発表。
- 1996 年

丸山敏秋、理事長に就任。
- 1998 年

第 1 回地球倫理推進賞贈呈式開催。倫理資料館竣工。
- 1999 年

創立 55 周年記念中国クブチ沙漠「地球倫理の森」創成事業スタート。丸山竹秋逝去。
- 2000 年

ブラジル・サンパウロに拠点開設。
- 2001 年

新富士高原研修所グランドオープン。
- 2003 年

第 1 回こども倫理塾大会開催。
- 2004 年

個人会員組織を「支所」から「家庭倫理の会」に改称。「朝の集い」を「おはよう倫理塾」に改称。
- 2005 年

創立 60 周年記念式典、青年フォーラム 21 全国大会開催。ハワイに拠点開設。
- 2006 年

創始者生家（復元）竣工。第 1 回しきなみ子供短歌コンクール表彰式を開催。
- 2007 年

倫理法人会 5 万社達成記念大会開催。
- 2008 年

第 1 回日中青年沙漠緑化交流開催。
- 2009 年

「地球倫理の森」創成 10 周年記念大会開催。
- 2010 年

日中実践倫理学討論会 2010 開催。
- 2011 年

富士教育センターオープン 45 周年記念式典開催。グランドデザイン完成。
- 2012 年

丸山敏雄生誕 120 年記念行事ならびに式典を開催。創立者展示室オープン。
- 2013 年

一般社団法人へ移行。
- 2014 年

教育再生フォーラム開催。「地球倫理の森」創成 15 周年記念式典開催。長年の沙漠緑化活動に対し、「第 6 回中国緑色発展高層論壇」において表彰を受ける。

主要施設



倫理文化センター
倫理運動推進の本部として各種業務を行なうほか、ホールや会議室を利用して国際会議や講演会、各種研修会が行なわれるなど、社会教育施設としての役割も果たしています。
〒 101-8385
東京都千代田区三崎町 3-1-10

富士教育センター
純粋倫理の理論的・実践的学習のために、小学生から成人までを対象にした各種セミナーを行なっています。センター内には、富士高原研修所・富士倫理学苑・富士万葉植物園・丸山敏雄記念館があります。
〒 412-0008
静岡県御殿場市印野 1383-9



天和会館
倫理運動の創始者・丸山敏雄の生家（2006 年復元）に隣接した会館です。主に倫理研究所の研修施設として活用されています。伝統建築の粋を集めた家屋は、日本の原風景を感じさせる周囲の景観とマッチし、豊前市の新たな観光名所としても注目を集めています。
〒 828-0081 福岡県豊前市大字天和 392

倫理資料館

創立者の遺品・遺墨、倫理・道徳に関する専門図書のほか、倫理運動史料や記録などの収集・保存整理を行なっています。遺品管理データベースの構築を進めるとともに、遺墨の修復も行なっています。
〒 180-0022
東京都武蔵野市境 5-6-25





一般社団法人 倫理研究所

〒101-8385 東京都千代田区三崎町 3-1-10 TEL 03-3264-2251
ホームページ <http://www.rinri-jpn.or.jp>

発行：一般社団法人倫理研究所 編集：倫理研究所広報部 発行日：2014.11.20